

○13番 龍山咲良君

行橋中学校3年、龍山咲良です。私は、選挙の投票率低下の改善策について、質問します。

近年、選挙における若者の投票率の低下が度々話題にあがります。これは、行橋市も例外ではありません。現在は、高校で主権者教育が行われています。そこで注目しなければならないのは、義務教育の小・中学生の間に深い内容の主権者教育が行われず、高校で学んだとしても、現状、身近なものとしてとらえられていないということです。

生徒会の改選などで投票を行います、その選挙で投票することの意味が理解できているとは思いません。そこで、小・中学生の間に体験することで、選挙について学べる選挙出前授業や模擬選挙など、学校内で行うことを提案します。そうすることで自分事として捉えられていないという点を補うことができるのではないかと考えました。どのようにお考えでしょうか。

○後半議長 遠藤優奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

龍山議員のご質問にお答えいたします。

私も常々まちづくりの主人公は市民であると申し上げておまして、やはり主体性を持ってまちづくりに市民の皆さんが参画していただく、こういったことがとても価値あるものだというふうに思っております。

今おっしゃった主権者教育、これは例えばシチズンシップ教育と言われたりとか、いろいろな言い方があるわけではありますが、まさに議員のおっしゃるように、この選挙、それからまちづくり、こういったものに対しての関心といったものが、なかなか高まらないなと思っております、例えば近い選挙で申し上げますと、昨年2月に行われた市長選挙では、投票率が49.1パーセントということで2人に1人の有権者しか投票に行っていない。そしてこの春に行われました統一地方選挙の福岡県議会議員選挙、これにおきましては33.7パーセントということで、県平均の35.5パーセントの投票率を下回っている状況です。

どちらかという、ある程度満たされた国というのは、投票率が上がらないような傾向にあると言われておりますけれども、日本はその中でも投票率が低いと言われております。

議員おっしゃるように、やはり幼少期からの、特に義務教育、小・中学校の間に、いかに選挙やまちづくりに参画する、主権者としての意識を育むか、これはとっても重要だと思います。

例えば選挙に保護者の方と一緒にいったことがあるお子さんは、18歳を超

えてからの選挙に行く率が高くなっているというデータがあります。これは、責任といったものを意識するだけではなくて、選挙って、そんなに難しいものじゃないんだ、もっと身近なんだなというふうに、小さなうちに、まず感じてもらうということが重要なんです。

ですから、ぜひ会場にお越しの保護者の皆様方も、まずはお子さんと一緒に選挙に行っていただきたい。また議員の皆さん方も、もし選挙会場に行ったことがない方がいらっしゃるようでしたら、ぜひ家族の方が選挙に行かれるときに一緒に行く、そういったこともしていただければ、見えてくるものもあるのではないかなと思っています。

また、こういった活動は、とにかく重要でございますので、出前授業ですね、これは高校生には平成30年に行っているんですが、小・中学生には出前授業とか模擬投票といったものは、まだ本市では実施しておりません。これは絶対に必要だと思っていますし、また例えば、これは子ども議会も実は主権者教育の重要な機会なんですよね。こういった子ども議会、学校によっては、なかなか手が挙がらなくて、もう学校のほうで、君、行って、生徒会の人、行ってと、例えばそういったことがよくあるようなんですけれども、もっともっとここでさらに自由闊達な議論ができるような空間をつくって、そして皆さんの意見が実際に市政に反映される、そういったものになってくれば、この場ももっと価値あるものになっていくと思っています。

そういった意味で、この主権者教育としての子ども議会、これももっと発展させていく必要があるのかなと思っています。

その他にも、例えば実際に市役所の職員として皆さんに職場体験をしていただく、あるいは市長と一緒に数日間活動を共にする、インターンシップですね、こういったものなども、今後やっていけたらなというふうな願望、思いを持っております。以上です。

○後半議長 遠藤優奈君
龍山議員。

○13番 龍山咲良君

投票率向上のためには、児童・生徒への教育だけではなく、若者への呼び掛けも重要だと考えました。

若い世代で普及しているものは、間違いなくSNSであると言えます。新しくなった市のホームページやインスタグラム、LINEなどの市で運営しているSNSなどを駆使して選挙に行くことを呼びかけることが効果的と考えたのですが、どのようにお考えでしょうか。

○後半議長 遠藤優奈君
執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。おっしゃるとおりですね、先ほど申し上げたような、まず内容を充実させていき、既存のこういった子ども議会をさらに充実させていく、あるいは新たなインターンシップ等々をつくっていくとか、そういったかたちでも主権者教育といったものを身近なものにしていく。と同時に、やはり知っていただくということですね。

一つ例を挙げますと、令和3年10月の衆議院選挙があったんですが、この際に、期日前投票立会人と言いまして、市民の方に投票所に来ていただくものなんですけれども、これを若者の方々を対象に、18歳から29歳までの方々に募集しまして、実際に若者の方々に立会人を務めていただきました。

その他にも、行橋市の選挙管理委員会のほうで、親子で選挙に行こう、というTシャツを着て、実際に期日前投票所で立ち会った、そういったこともさせていただいております。

その他にも、やはりいま議員がおっしゃったようなインターネット・SNSを通じて、より選挙が身近になるような取り組みといったものは、やはり必要だと思いますので、そういった広報もやっていきたいと思います。

併せて私もかつて議員でしたし、また今は市長という立場ですけれども、やはり政治に対する信用・信頼、こういったものを我々もいま一度肝に銘じてつくっていく、実践していく必要があるのかなと思っております。

そして、この政治といったもの、こういったものは、選挙、皆さんの1票といったものが、いかに重要なものなのか。選挙に行かないということは、ちょっと厳しい言い方をすれば、その権利というものを行使しないということは、それから先に行われる政策とかまちづくりといったものに意見を言うということが、果たしてできるのか、そういった視点も重要だと思うんです。やはりまちづくりに意見を言うためには、まずは最低限の権利、義務である選挙といったものに行くところから始める。そういった意味では、市民の皆さん方の意識の変革というのも重要だと思います。SNS、それからこういった場を通じて、あるいは市長まちかどトーク、いろいろな場を通じて、この主権者教育の重要性を訴えてまいりたいと思っております。以上です。

○後半議長 遠藤優奈君

龍山議員。

○13番 龍山咲良君

以上で質問を終わります。ありがとうございました。